【ナルフラフィン塩酸塩カプセル 2.5 μ g「ケミファ」】 無包装状態における安定性に関する資料

日本ケミファ株式会社

● 目的

ナルフラフィン塩酸塩カプセル $2.5 \mu g$ 「ケミファ」の無包装状態での安定性を確認するため試験を実施した。

● 保存条件

(1)温度 : 40±2℃、3ヵ月間、遮光・気密容器(ガラス瓶)

(2) 湿度①: 25 ± 2 °C、 75 ± 5 %RH、1 ヵ月間、恒温恒湿槽(遮光)・シャーレ開放 (3) 湿度②: 25 ± 2 °C、 60 ± 5 %RH、1 ヵ月間、恒温恒湿槽(遮光)・シャーレ開放

(4)光 : 1000lx・50 日間 (総照度 120 万 lx・hr)、25±2℃、成り行き湿度

● 試験項目

性状、純度試験(類縁物質)、崩壊性、定量法

● 結果

(1)温度に対する安定性

試験項目	規格	開始時	1 ヵ月	2 ヵ月	3 ヵ月	
性状	淡黄白色不透明の楕円球状の 軟カプセル剤	淡黄白色不透明の楕円球状の軟カプセル剤				
	RRT 約 0.76 : 2%以下	≦ 0.10	≦0.10	≦ 0.10	≦0.10	
	RRT 約 0.78 : 2%以下	N.D.	N.D.∼	N.D.∼	N.D.∼	
純度試験 (類縁物質含量* : %)			≦0.10	≦0.10	≦ 0.10	
	その他の最大:1.0%以下	≦ 0.10	≦ 0.10	≦0.10∼	0.11~0.18	
				0.21		
	類縁物質合計:4.0%以下	≦0.10	≦ 0.10	≦0.10∼	0.12~0.34	
				0.37		
崩壊性		12:28~	12:28~	12:07~	12:20~	
(崩壊時間	20 分以内に崩壊する	13:06	12:36	12:38	12:56	
分:秒)		19.00	12.90	14.90	12.00	
定量法	00.00.110.00/	100.1~100.5	100.2~103.1	98.9~100.6	100.1~102.2	
(含量:%)	90.0~110.0%					

※標準溶液のナルフラフィンのピーク面積を100%として算出。

表中の数値は、最小値~最大値を表す。

RRT:相対保持時間 N.D.:検出せず

(2)湿度①に対する安定性

試験項目	規格	開始時	1 日	3 日	1週間	2 週間	1ヵ月	
性状*1	淡黄白色不透明 の楕円球状の 軟カプセル剤	淡黄白色不透明の楕円球状の軟カプセル剤*3						
	長径約 9.7mm	9.66	9.64	10.14	10.22	10.18	10.06	
	短径(参考値※2)	6.30	6.57	6.59	6.70	6.77	6.80	
純度試験 (類縁物質 含量**4 :%)	RRT 約 0.76 : 2%以下	≦0.10	≦0.10	≦0.10	≤0.10~0.11	≤0.10~0.15	≤0.10~0.13	
	RRT 約 0.78 : 2%以下	N.D.	≦ 0.10	0.16~0.32	0.22~0.44	0.27~0.62	0.24~0.57	
	その他の最大: 1.0%以下	≦0.10	≦ 0.10	2.60~5.22	3.23~7.76	2.47~7.83	2.99~9.75	
	類縁物質合計 : 4.0%以下	≦0.10	≦ 0.10	4.89~9.07	5.47~13.44	5.03~11.59	4.63~10.47	
崩壊性 (崩壊時間 分:秒)	20 分以内に 崩壊する	12:28~ 13:06	_	_	_	_	10:22~ 10:59	
定量法 (含量:%)	90.0~110.0%	100.1~100.5	96.7~98.1	72.1~76.1	65.7~70.7	59.8~66.8	62.2~68.2	

※1:長径と短径の測定は一部の検体で実施した(参考データ)。

※2:短径は規格として設定されていない(添付文書上では約6.4mm)。

※3:1週間時点以降でカプセルの膨張や変形等が認められた。

※4:標準溶液のナルフラフィンのピーク面積を100%として算出。

表中の数値は、最小値~最大値を表す。(長径、短径は平均値)

RRT: 相対保持時間 N.D.: 検出せず -: 実施せず

(3)湿度②に対する安定性

試験項目	規格	開始時	3 目	1 週間	2 週間	1ヵ月		
性状*1	淡黄白色不透明 の楕円球状の 軟カプセル剤	淡黄白色不透明の楕円球状の軟カプセル剤*3						
	長径約 9.7mm	9.66	9.69	9.64	9.71	9.70		
	短径(参考値※2)	6.30	6.43	6.55	6.56	6.57		
純度試験 (類縁物質 含量 ^{*4} :%)	RRT 約 0.76 : 2%以下	≦0.10	≦0.10	≦0.10	≦0.10	≦0.10		
	RRT 約 0.78 : 2%以下	N.D.	N.D.	N.D.~≦0.10	≦0.10	≦0.10		
	その他の最大: 1.0%以下	≦ 0.10	$\leq 0.10 \sim 0.36$	≦0.10	$\leq 0.10 \sim 0.32$	≦0.10		
	類縁物質合計 : 4.0%以下	≦ 0.10	$\leq 0.10 \sim 0.36$	≦0.10	$\leq 0.10 \sim 0.48$	≦0.10		
崩壊性 (崩壊時間 分:秒)	20 分以内に 崩壊する	12:28~13:06	11:54~12:07	12:05~12:41	12:33~12:34	11:46~12:11		
定量法 (含量:%)	90.0~110.0%	100.1~100.5	100.3~101.4	99.4~101.7	98.2~100.7	96.1~98.9		

※1:長径と短径の測定は一部の検体で実施した(参考データ)。

※2:短径は規格として設定されていない(添付文書上では約6.4mm)。

※3:1週間時点以降でカプセルの膨張が認められた。

※4:標準溶液のナルフラフィンのピーク面積を100%として算出。

表中の数値は、最小値~最大値を表す。(長径、短径は平均値)

RRT: 相対保持時間 N.D.: 検出せず

(4) 光に対する安定性

試験項目	規格	開始時	33.6 万 lx・hr (2 週間)	60万 lx·hr (25 日)	120万 lx·hr (50 日)
性状	淡黄白色不透明の楕円球状の 軟カプセル剤	淡黄白色不透明の楕円球状の軟カプセル剤*1			
純度試験 (類縁物質含量 ^{※2} : %)	RRT 約 0.76 : 2%以下	≦ 0.10	_	≦ 0.10	≦0.10
	RRT 約 0.78 : 2%以下	N.D.	_	N.D.	N.D.
	その他の最大:1.0%以下	≦ 0.10	_	≦ 0.10	≦0.10
	類縁物質合計:4.0%以下	≦ 0.10	_	0.26	0.44
崩壊性 (崩壊時間 分:秒)	20 分以内に崩壊する	12:38	_	12:25	12.07
定量法 (含量:%)	90.0~110.0%	100.3	_	102.3	100.4

※1: 光照射側の色調が、 $60 \, \mathrm{Flx} \cdot \mathrm{hr}$ 時点でごくわずかに黄味がかっているのが認められ、 $120 \, \mathrm{Flx} \cdot \mathrm{hr}$ 時点では黄味がかっているのが認められた。

※2:標準溶液のナルフラフィンのピーク面積を100%として算出。

表中の数値は、1回の測定値を示す。

RRT: 相対保持時間 N.D.: 検出せず -: 実施せず

● 結論

ナルフラフィン塩酸塩カプセル $2.5\,\mu\,\mathrm{g}$ 「ケミファ」の無包装状態における安定性を確認するため試験を実施した結果、温度に対する安定性については、問題となる変化は認められなかった。湿度①に対する安定性については、3 日時点で類縁物質の増加(規格外)及び含量の低下(規格外)が認められ、1 週間時点でカプセルの膨張(長径 $+0.56\mathrm{mm}$ 、短径 $+0.40\mathrm{mm}$)や変形が認められた。湿度②に対する安定性については、含量の低下(規格内)が認められ、1 週間時点でカプセルの膨張(長径 $-0.02\mathrm{mm}$ 、短径 $+0.25\mathrm{mm}$)が認められた。光に対する安定性については、60 万 $\mathrm{lx}\cdot\mathrm{hr}$ 時点以降で着色が認められたが規格内であった。

日本薬品工業株式会社:無包装状態における安定性に関する資料(社内資料) 2018年6月作成